

市長の攻撃跳ね返し、憲法と地方自治生きる市役所を！

大阪市労組組合員集会に85名が参加し意思統一

3月25日、大阪市労組は橋下市長による攻撃を跳ね返し、憲法と地方公務員法に保障された市役所づくりすすめ市民生活守る大阪市をつくろうと全組合員集会開催し、85名が参加しました。

冒頭あいさつにたった竹村委員長は、冒頭「思想調査アンケートを『凍結』させた運動の中で組合員から『全国の支援に感激した』『アンケートは職員だけでなく市民や民主主義にとっても重要な問題だ』『改めて市労組でよかった』などの声が寄せられた、運動の到達に確信を持とう」と呼びかけ「(組合事務所)裁判は提訴するだけでは運動にならない、自信と誇りを持って行動し、仲間を増やすとりくみと統一してたたかおう。・・・2大政党が混迷するもどで「真面目に政治を変えたい」と思い維新政治塾に参加した人もいる。こうした人たちとも大阪市をよくするための要求闘争を行い、職場要求闘争を並行させながら、今まで以上に要求実現のとりくみを強化し、市労組の姿を職場と地域で示すことが重要だ。」と訴えました。

大阪労連闘争本部から菅、坂本氏が「胸をはってたたかおう」と激励あいさつ

最初に、大阪労連闘争本部の菅義人事務局長より「昨日府で2条例が可決され、京橋で緊急宣伝を行った。『死ぬ』と罵声を浴びせる人もいたが、一方で『ヒッターが生まれてきたような気がしてならない。私も戦前は天皇やヒッターを尊敬していたが

だまされた。頑張ってもらいたい。』と激励された。アンケートは『凍結』だが謝罪させなければならない。組合事務所については民間ではありえない。普通に家賃を払って普通に使っていて、突然出て行けとは無茶苦茶な話だ。大阪労連は当初『公務労働者の権利侵害とたたかう闘争委員会』としていたが、公務を取って全労働者の問題として『労働者の権利侵害とたたかう闘争委員会』に変え、ともにたたかう決意です。」と述べました。

続いて、国労大阪の坂本一朗委員長が「今日は国



労委員長でなく、民間部会副会長としてあいさつを行う。2条例、アンケート、組合事務所などにより反動的に情勢を打開することが攻撃の本質だ。安倍元総理ともつながっており18日の集会ではネット右翼も出てきた。私が一番訴えたいことは、『胸をはってたたかおう』ということだ。ILOでも労働組合は平和と民主主義の担い手と位置付けられている。国鉄時代にはワイドショーなどでさんざん攻撃されたが職場では本質を国民に訴えようと意思統一して頑張ってきた。それが1047名の闘いにつながった。人事評価でバラバラにして物言えぬ職場にした結果がJRの尼崎事故につながった。市役所でもものが言えなくなると市民に迷惑がかかることになる。民間部会もいっしょに闘う決意を表明する。」と激励しました。



市労組と支援が橋下市長を追い詰めていることは間違いない

田所書記長より経過報告があり参加者からの発言を求めました。

北大阪支部の組合員は「市労組と支援の力がアンケートを凍結させたことは間違いない。（組合事務所で）提訴したことも大きい。他労組との共同もすすめてほしい。」保育所からは「日の丸を掲げているが、君が代まで歌わされるのではないか？みんなが心配している。民営化でも、4年後の再就職の心配をしている人もいる。」本庁からは「多くの組合員がアンケートの提出を拒否した。事務スペースでもたたかっている。また、町会への補助金は7月までの暫定であり、3月末での首きりも発生する。その一方で道路関係予算などは満額ついており、市民といっしょに学習したい。」南大阪支部からは「ピラマキを区長が妨害したが、憲法違反だと抗議して堂々と配布した。書記長の提起にあった『人間の尊厳をかけてたたかう』との言葉に感動した。3月末に退職するが引き続き頑張りたい。」などの発言が出されました。

次に組織拡大の提起と書記長のまとめがあり、団結ガンバローで締めくくりました。

～大阪自治労連速報より～

通信労組3・15ストライキ行動

正規も非正規も、ともに要求実現へ！

通信労組大阪支部は中央本部の3、15ストライキ突入指令に基づきストライキ突入前夜決起集会を3月14日、18時40分より国労会館で開催しました。

当日は早朝よりの諸行動で多忙なところ、84名の組合員が結集し、大阪労連川辺議長の激励の挨拶をはじめ、すべての分会（8分会）から決意表明がされるなど、スト前夜の熱気溢れる集会となりました。

非正規分会の会長からもスト成功への決意

昨年の1月に分会結成をした大阪南分会（非正

規分会）の黒岡分会長は「これまで組合活動やストライキなど無縁であったが、諸先輩の指導のもと明日のストライキを成功させたい」と決意表明。また「これまで日帰り日当が支給されていませんでしたが、支部指導のもと勇気をふるって会社に請求したら、3月から支給を約束させることが出来ました」と幸先のいい報告がされました。

15日のストライキ当日、OCB前には33名の組合員がゼッケン、腕章を付け、のぼりや分会旗、横断幕を広げ、8時前から9時過ぎまで、ストライキ突入確認集会を展開。

大阪労連宮武事務局長の激励挨拶に始まり、支部、分会代表者からそれぞれ決意表明があり、労働者の闘う姿を出勤する労働者、また周辺の企業や通行人にアピールしました。

OCBはNTT西日本・関西のおひざ元であり、労務担当課長や主査が私たちの周りをウロウロしていましたが声をかけてくることもなく、NTT労組も号外ピラを7、8名が撒いていましたが、通信労組の迫力に驚いた様子。集会最後はストライキ宣伝、シュプレヒコール、団結ガンバローで締めくくりました。

堺ビル前でも、大阪南・住吉・地域分会の組合員、OBなど15人が参加し、労働歌をテープで流し元気にスト突入集会を開始。堺ビルは、昨年結成された大阪南分会のあるビルで、116センチやコンシューマの非正規労働者を励ましながらピラをまきました。シュプレヒコールで集会を終えました。

